



JR東労組 八王子

HACHIOJI



ホームページ

発行責任者  
執行委員長 針谷 歩

2022/9/9 №13

## 8月31日 青梅線青梅～奥多摩間の安全安定

### 輸送確保に向けた緊急申し入れ開催！！その①

#### 東労組

#### 会社

##### 【申し入れ内容】

1. 青梅線沿線の草木を早急に伐採し、安全確保に努めること。

##### 【交渉での主な議論】

- ・調査検査はどのように行い、対応を行っているのか？
- ・台帳は土木で管理しているのか？
- ・信号など見えず喚呼できないときもある。台帳で管理し計画的に伐採は行っているが、現実はそうではないのでは？
- ・台帳など他システムへの見える化・可視化が必要なのではないか？社内アピールするべきではないか？全体化するのも重要だ、乗務している社員の不安を払拭できるのではないか？
- ・今年度の沿線木会議の計画は？  
台風に対する対応は終わっているのか？
- ・計画は減少するのか？
- ・近接木に対しての知識や判断できる社員の醸成について、土木技セとして注意すべき箇所を抽出しているのか？

##### 【回答】

1. 沿線樹木の伐採については、調査、検査、巡回などにより近接木を抽出し、台帳に整理した上で、優先順位をつけて計画的に伐採を行い、安全確保に努めている。

##### 【交渉での主な議論】

- ・土技セ(2回/年)、保技セ(総合巡視、列車巡視)、電力技セ(夏季輸送前)、信通技セ(1回/2年)  
昨年度近接木 1078 本伐採、うち青梅線 278 本。八高線を多く行った。
- ・台帳は各技セで管理している。根本から切れるものは土木技セで管理している。台帳は各システムで管理しているという認識。
- ・全部が事前に伐採できていないと同じ認識である。
- ・共有すると不安も払拭できると思う。事前に情報共有すると色々な面でよい(設備部)
- ・安心につながることはいいこと、どういう形で伝えるのがいいのか検討させて頂きたい(運輸部)。
- ・2回目は降雪前の対応。
- ・竹や枝等はやっているが、根元から伐採は行っていない。
- ・必要性を訴えておこなっていく。昨年度は大船渡線で倒木による脱線があり、橋梁手前・トンネル手前の健全性を調査し緊急で対応した。
- ・ある程度知識があつて見ることが出来る社員が土木技セにいる。土木技セ以外の技セには沿線近接木会議にて沿線近接木処置マニュアルで情報共有や教育を行っている。